



校長室の窓から

《校長だより》

神奈川県立市ケ尾高等学校

校長 増淵 広美

平成 28 年 1 月 13 日

第 10 号

◆◆ 新たな年を迎えて

◆◆ 一年の計は元旦にあり ～「新年の誓い」達成に向けて～

「一日の計は朝にあり 一年の計は元旦にあり」と言いますが、新年にあたり、皆さんはどんな目標や計画を立てましたか。年が改まると、心も晴れ晴れと「今年こそは！」という意気込みにも似た思いを抱くものです。こういう節目の高揚感を大切に、将来の自分に思いを馳せ、高い志を持ってこの1年を過ごしてください。そして、「今年こそは！」という思いを是非形にしてください。

その時に大切なことは、より具体的な目標や計画を立てることです。例えば、「今年は毎日英語の勉強をする！」と決めたら、「いつ」「どこで」「1日にどれくらい」というように具体的な計画を立てて習慣化してください。また、「今年はTOEICに挑戦する！」というような漠然とした目標よりも、「TOEIC〇〇点を目指す！」というように、目標の内容もより具体的にすると効果が上がります。大

切なことは、明確な意識を持って行動することです。

また、アメリカの研究者の実験結果によると、「目標に前向きになった上で、道のりの険しさを自覚することが重要」だそうで、前向きに「目標は達成できる」と考えた人は、そうでない人（「ダメかも……」と思った人）よりも目標の達成率が高く、達成の困難さを自覚する人は、「簡単！」と安易に考えた人よりも達成率が高かったそうです。

「新年の誓い」達成に向けて、具体的な計画、前向きな姿勢、予想される困難に立ち向かう勇気を持って、粘り強く臨んでください。皆さんのさらなる成長に期待しています。



自慢の花壇には愛がいっぱいです

◆◆ 選挙権年齢引き下げ後、はじめての選挙を迎えます！

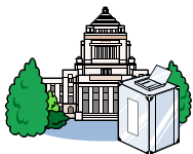
今年は、いよいよ選挙権年齢が18歳に引き下げられてはじめての選挙を迎えます。今回の選挙権年齢の引き下げは、日本の未来を担う若い世代に、その未来の在り方を決める政治に参画してもらうためのもので、現在の高校3年生と2年生の一部が、この夏の参院選で実際に投票することとなります。今回の選挙年齢の引き下げで、有権者が約240万人増えるそうです。

有権者になるということは、選挙などをとおして政治に参加する権利を得ると同時に、社会の一員としての義務や責務が生じるということでもあり、責任を持って政治について考え、自ら判断することが求められます。そのためには、政治の仕組みや原理について知ることはも

ちろん、社会、経済、国際関係など様々な分野において日本の現状がどうなっているのか、また課題は何なのかといった「政治的な教養」を身につける必

要があります。そして、何よりも大切なことは、「当事者意識」を持つことであり、毎日の生活の中で社会の情勢や政治に興味・関心を持ち、自ら考えることです。

総務省と文部科学省が作成した「私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために」という副教材が、昨年年末までに全国の高校生に配付されました。また、神奈川県でも、それに先駆けて独自の教材を作成し、各高校では、そのような教材などを活用して、高校生の「政治的な教養」を育むこととなっています。是非、そういう機会を大切にし、皆さんが担う日本の未来について、しっかりと向き合い、真剣に考えてほしいと思います。ちなみに、どの時点での満18歳に選挙権が与えられるのかということ、年齢については、法律で、生まれた年の翌年の誕生日の前日に満1歳になるとされているので、投票日の翌日が満18歳の誕生日の人までが対象となります。



◆◆ 夢に挑む ～小説『下町ロケット』の主人公・佃航平に学ぶ仕事の流儀～

2学期の終業式で、皆さんに「本を1冊以上読む」という宿題を出しましたが、皆さんは、どんな本を読みましたか。私も、この年末年始にかけて何冊かの本を読みました。今回は、その中から、池井戸潤の小説『下町ロケット』について紹介します。

◆◆ 難しいからこそやる価値がある！

『下町ロケット』は、2011年上半期（第145回）の直木賞受賞作品ですが、昨年10月から12月にかけてテレビドラマとして放映され、同時期のドラマでは最も高い視聴率だったので、観ていた人も多いと思います。

私も、何気なく第1話を観ましたが、夢と愛と情熱にあふれる主人公・佃航平の生き方に引き込まれ、普段は時間を割いてまで観ることがないテレビドラマを、都合

の悪いときは録画までして全編を観てしまいました。

主人公の佃航平は、宇宙開発機構の研究員としてロケット開発に情熱を注いでいましたが、ロケットの打ち上げ失敗の責任をとって退職し、父親の残した佃製作所を継ぎ、中小企業の社長として、第二の人生を歩みます。しかし、航平は、ロケット開発という夢を捨てきれず、中小企業には不釣り合いなロケットエンジンの開発に力

を注ぎ、その結果、経営の悪化、得意先からの取引中止、銀行からの融資難など、次から次へと困難が降りかかります。しかし、時には迷いながらも、その困難に屈することなくロケット開発という自分の夢を決して諦めず、挑み続け、その力強さは、勇気と感動を与えます。

困難を抱え、それに立ち向かう航平の言葉の中で、と

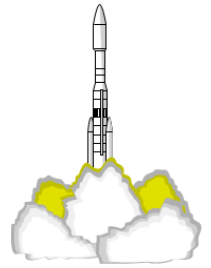
◆◆ 仕事というのは二階建ての家のようなもの ~仕事には夢がなきゃつまらない~

原作を読んでみると、この作品の新たな一面に気がつきました。それは、この作品が、自分の夢に挑むだけの物語ではなく、「仕事」というものに対する深い哲学を持った作品でもあったということです。

一部の社員の反感を買いながらも開発を続けたバルブシステムが、政府から大型ロケットの製造開発を委託されている大企業に先んじて特許出願されていたために、20億という巨額での特許買取や年間5億という特許使用料の話が持ちかけられます。しかし、航平は、何のリスクを負うこともなく巨額の収入が入る道を選ぶ、より困難な部品供給という道を選び、その選択に反対する社員たちに、「カネの問題じゃない。これはエンジン・メーカーとしての、夢とプライドの問題だ」と語ります。

また、別の場面では、「ロケット開発」という、「中小企業」の現実からかけ離れた夢に向かう航平に反発する社員に、「仕事っていうのは、二階建ての家みたいなものだと思う。一階部分は、飯を食うためだ。必要な金を稼ぎ、生活していくために働く。だけど、それだけじゃあ窮屈だ。だから、仕事には夢がなきゃならないと思う。それが二階部分だ。夢だけ追っかけても飯は食えないし、飯だけ食えても夢がなきゃつまらない。」と語ります。まさに、これが、主人公、佃航平の仕事観であり、

でも印象に残っている言葉があります。それは、「難しいからこそやる価値がある。どんな難問にも必ず答えがある。挑戦すれば、必ずその答えを見つけることができる。」という言葉です。その言葉を聞いて、原作を読んでみようと思いました。



作者、池井戸潤の仕事観なのだと思います。勿論、私もそのとおりに思いますが、たとえ、仕事に就いた時に夢を持ってなかったとしても、その仕事が社会に貢献できる仕事であり、その仕事に本気で向き合うことができれば、いつか必ずやりがいを感じ、夢を持つことができるとも思っています。

航平は、その後も様々な困難に出遭います。しかし、全力を尽くしてまっすぐに夢に向かっていく航平は、徐々に社員たちの理解を得、相対する大企業の中にもよき理解者を得て、ついに、佃製作所が開発し、部品供給したバルブシステムを搭載したロケットが、打ち上げに成功します。これは、決して物語の中だけの話ではありません。現実の世界でも言えることです。誠実に、そして、まっすぐに何かに向かっていこうとする姿勢は、人の心を動かし、よき理解者、よき支援者に必ずめぐり合うことができます。人は一人だけでは生きていけません。互いに支えたり、支えられたりする中で、成長し、何かを成し遂げていきます。

皆さんが、困難にぶつかったとき、あるいは、社会に出て仕事を選んだり、仕事に迷ったりしたときに、今回の話を思い出してくれたら、とてもうれしいです。

◆◆ 3学期に向けて ~全力を尽くす~

この小説のある場面で、佃製作所からの部品供給を望まない大企業に真っ向から立ち向かうとする航平が、それを嬉々として応援する母親に、「なにが正しいかは、後になってみないとわからないさ。肝心なことは、後悔しないことだな。そのためには、全力を尽くすしかない」と語ります。

「後悔しないために全力を尽くす」—— 皆さんも、これまでに何度も聞いたことがある言葉だと思います。しかし、夢と情熱にあふれる航平の言葉として聞くと、新たな気持ちで受け止められるような気がします。後悔ほど悔しいものはありません。何事にも全力を尽くし、常に自分の「最高」を積み重ねていきたいものです。

いよいよ今年度も3学期を残すばかりとなりました。どの学年も、学年を締めくくるにふさわしい充実した3学期にしてください。また、今週末にはセンター試験があります。3年生にとっては、いよいよ受験シーズンの到来です。

寒さ厳しく、風邪やインフルエンザが流行る時期です。マスクの着用、手洗い・うがいの励行、十分な栄養・睡眠、室内の加湿・換気など、健康管理には十分留意してください。

受験生の皆さんは、これまで培った力が十二分に発揮できるよう、自信と勇気を持って、最高のコンディションで試験当日を迎えてください。皆さんの健闘を心からお祈りしています。



受験生にエール!

■「陽気の発する ところきんせき 処 とお 金石もまた透る」

これは、中国の『朱子語類』という書物にある言葉で、陽の気はあらゆるものを貫き通して進むという意味から、精神を集中して物事にあたれば、成功しないことがないというたとえで、この後に「精神一到何事か成らざらん」と続きます。

何事にも積極的な心構えで一心に臨むことが大切です。これから訪れる大学入試についても、時に頭をもたげる不安や雑念を振り払い、これまでやって来たことと自分を信じて勉強に集中し、最後の最後まで全力を尽くしてください。

勿論、この言葉は、入試だけではなくすべてに通じる言葉です。皆さんの人生の鍵は、皆さんの心の中にあります。どんな時でも前向きで、積極的な心を持って最善を尽くし続ければ、必ず道は開けます。自らを信じ、高い志をもって目標に突き進んでください。ハードルは高いほどやりがいがあります。果敢に自分の可能性に挑戦してください。